

第114回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成21年4月24日(金) 13:30～16:00

場所：JR 東海 品川ビル A 棟

出席者：委員長 脇若 (信州大)
委員 小豆澤 (東京都市大), 坂本 (岩松代理, 鉄道総研), 花岡 (東洋電機製造),
樋口 (長崎大), 平田 (大阪大), 森下 (東芝), 矢野 (産総研), 渡辺 (IEEJ)
幹事 村井 (JR 東海), 水野 (信州大)
幹事補佐 鳥居 (東京都市大), 矢島 (SMC) (記)

提出資料

- 114-1 第113回リニアドライブ技術委員会議事録案 (鳥居幹事補佐)
- 114-2 リニアドライブ技術委員会名簿 (矢島幹事補佐)
- 114-3 平成20年度 第3回 研究経営会議 議題 (脇若委員長)
- 114-4 平成21年度 活動計画三次案 (脇若委員長)
- 114-5 平成21年度 新設・終了・報告書発行委員会 三次案 (脇若委員長)
- 114-6 2008年度 LD 技術委員会総括と方針 (脇若委員長)
- 114-7 平成20年度 リニアドライブ技術委員会 活動報告 (脇若委員長)
- 114-8 リニアドライブ技術委員会構成と任期 (脇若委員長)
- 114-9 委員会構成員変更届 (脇若委員長)
- 114-10 電磁力関連のダイナミクスシンポジウム スケジュールと予算見積り (4月24日現在) (脇若委員長)
- 114-11 平成21年度 リニアドライブ関連各委員会 予定一覧 (鳥居幹事補佐)
- 114-12 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 (MLV) 活動報告 (森下委員)
- 114-13 第3回 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 議事録 (森下委員)

議事

1. 議事録確認

資料114-1を用いて議事録の確認が行われた。以下の点を修正することで承認された。

- (1) 3.3 内, 「多自由度及び新世代の応用可能性調査専門委員会」→「多自由度モータ及び新世代アクチュエータの応用可能性調査専門委員会」
- (2) 3.4 内, 「医用アクチュエーションの協同研究委員会」→「医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会」
- (3) 多自由度及び新世代の応用可能性調査専門委員会の略称は MDD とし, それにあわせ, 3.5 内, 8 月に開催する研究会の協賛の表記を[NAD 協賛]から[MDD 協賛]とする

2. 名簿の確認

- 2.1 資料114-2を基に委員名簿の確認を行った。所属変更, 所属の名称変更などがあり, 更新することとなった。
- 2.2 資料114-8を基に委員構成と任期を確認した。電気学会で確認した資料114-8の内容において, 申請済み内容が反映されていないなどの不備が指摘され, 脇若委員長から電気学会に委員構成および就任日をご確認いただくことになった。
- 2.3 MDD 委に矢野委員長が就任されるにともない, 矢野委員は2号委員, 平田委員は1号委員となつていただく。
- 2.4 MCD 委に岡本委員長が就任されるにともない, 岡本委員は2号委員, 増澤委員は1号委員となつていただく。
- 2.3 築島委員 (三菱電機) から大穀委員 (三菱電機) に交代 (資料114-9)。

3. 報告事項

- 3.1 資料114-3を用いて, 脇若委員長から第92回産業応用部門研究調査運営委員会 (3月5日) の内容に関して以下の報告があった。
 - (1) 分野をまたぐ研究テーマに関して 2/5 頁にある「テーラーメイド工学に関する特別研究グループ」のようにやればよい
 - (2) 研究会, シンポジウムの発表件数 UP に技術委員会が何をしたか問われるようになってきてい

る。

(3) 技術報告書について、電気学会における自己（委員会メンバ）の著作物は引用転載許可書が不要と簡便になった・・・平田委員から、逆に自己以外の電気学会の著作物は引用転載許可書が必要にならないかとの意見が出された

(4) 平成 23 年全国大会が大阪大学に決定した

(5) 活性化のため、技術委員会の統廃合について活発な討議が行われた

3.2 資料 114-4 を基に、脇若委員長から活動計画について説明があった。6月に交通博物館、7月に東北新幹線の見学会を予定しており、北野副委員長に確認していただく。HSST 実験線の見学会を今年度中に行えるか脇若委員長が検討する。

3.3 資料 114-5 を基に、脇若委員長から新設委員会および技術報告書の発行状況（予定）について説明があった。

(1) 新設の調査専門委員会

i) 新世代アクチュエータの多自由度化調査専門委員会（MDD 委）：設置済み

ii) 医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会（ECD 委）：設置予定

iii) 産業用リニア電磁駆動システムにおける高度化要素技術調査専門委員会（MEL 委）：設置予定（10月）

(2) 技術報告書

i) MEL 委：3月に1件提出済み、年度内にもう1件提出予定

ii) MLV 委：4月に提出済み

iii) MDD 委：6・7月に提出予定

iv) ~~超伝導~~の技術報告書（2件）はキャンセル

3.4 資料 114-6 を基に、脇若委員長から 2008 年度 LD 技術委員会総括と方針について、産業応用部門なので、企業からの発表を増やし、産・官・学のバランスの良い発表にしたい旨の説明があった。電気学会の全国大会ではリニアドライブのセッションは発表が7件しかなく、最終日の午後で参加者も少なかったとの意見がだされ、各専門委員会の委員長に投稿を呼びかけるなどして発表件数を増やさなければならないことが確認された。

3.5 資料 114-7 を基に、脇若委員長から平成 20 年度 LD 技術委員会活動報告について説明があった。

3.6 資料 114-10 を基に、脇若委員長から電磁力関連のダイナミクスシンポジウムのスケジュールと予算見積もりについて説明があった。もし赤字となった場合、LD 技術委員会で救済処置を行うことが確認された。

3.7 資料 114-11 を基に、研究会、調査専門委員会の開催日および関連会合の確認が行われた。

(1) LD 研 7 月、12 月（MLV 協賛）は合同先に併せて開催する

(2) LD 研 ECD 協賛と MDD 協賛を同時に行~~う~~（ただし場所は別）、開催日は ECD に合わせる

(3) LD 研 1 月（MEL 協賛）は東京都市大で行う、開催日は鳥居委員が検討する

4. 審議事項

4.1 上記 2.1(2)において、今年開催される LDIA（韓国）に対する LD 技術委員会の取り組みが検討された。前回の LDIA では外国からの投稿に対し、~~論文掲載料の半額を LD 技術委員で負担した。~~投稿数を増やすため、今回の LDIA でも同様に行ったほうがよいという意見が出され、その方向で脇若委員長が韓国側の状況を確認して進めることが決定。

5. 各調査専門委員会活動報告

資料 114-~~13~~¹²~114-~~14~~¹³ を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

以上